

北東アジアの開発金融協力と、日本・JBIC の貢献

国際協力銀行（JBIC）代表取締役専務取締役

前田匡史

1. 北東アジア地域の特徴と潜在性

中国東北部（東北3省）、モンゴル、朝鮮半島、ロシア極東地域、日本（特に日本海側）を中心とする北東アジアは、政治体制や人口、経済の発展段階や経済構造等多くの点で、多様性に富んだ地域である。また、各国の中で比較的開発が遅れた地域を含んでいる。

北東アジアの開発にあたっては、この多様性を生かすことが重要になる。ロシアやモンゴルの豊富な天然資源、中国東北部や北朝鮮の安価な労働力、日本や韓国の高高度な技術をうまく相互補完的に機能させられれば、飛躍的な発展を遂げられるだろう。そのために重要となるのが、域内の連結性を強化するためのインフラ開発である。

ロシアのガスを中国に運ぶガスパイプライン「シベリアの力」や、ロシアの沿海州と中国北東部を連結する鉄道輸送能力の拡大や港の建設は、そういった開発の一例として挙げられる。日本に関連するものとして、ロシアのサハリン島と日本の北海道を送電線で結び、ロシアの安価な電力を供給するエネルギーブリッジ構想も存在する。

2. 金融協力の在り方

こういったインフラ開発には多額の資金が必要であり、その出し手をどう確保するかが課題となる。インフラ開発においては、国際開発金融機関が重要な役割を担ってきた。この地域では ADB が中国とモンゴル、EBRD がロシアとモンゴルを活動対象としているが、6カ国を包括的に対象とする機関は存在しない。AIIB は、非加盟の日本と北朝鮮以外の地域を対象としうるが、どの地域のこういった分野に注力していくのか、まだビジネスモデルがはっきりしない。

また、北東アジアのインフラ開発においては、前述の通り連結性の強化が重要である。そのためクロスボーダー案件への対応が必要であり、域内6カ国全てが受益国になりうる。特定国内の個別案件を支援対象とし、資金拠出国と受益国が明確に分かれる従来型の国際機関の枠を超えた枠組みを考えることも一案であろう。

3. 日本の役割

昨年5月、安倍首相は「質の高いインフラパートナーシップ」を公表し、機能を強化した ADB と連携し、今後5年間で約1100億ドルの「質の高いインフラ投資」をアジア地域に提供することを表明した。これは、国の持続的な発展と人々に幸福と利益をもたらすためには、質を確保したインフラ整備を行うことが重要との考え方に基づく。

「質の高いインフラ投資」は北東アジア地域のインフラ整備にとっても重要な考え方であり、日本はこれに基づく貢献をしていくことになる。また、このパートナーシップの一つの柱として、JBIC の機能強化等によるリスク・マネーの供給倍増が掲げられている。JBIC はこれまでもアジア地域のインフラ整備を支援してきたが、今後、より踏み込んだ支援を行うことが期待されている。